

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

社会情報学部 数理・DS・AI教育プログラム自己点検・評価委員会

(責任者名) 宮川 裕之

(役職名) 同委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	本プログラムは複数年度にわたり開講し、修了要件を満たした時点で修了証を発行する。1年次に履修できる科目は学部必修科目が中心であり本プログラム履修者以外も履修するため、便宜上、2年次以降に「データサイエンス・AI概論」を履修申請した者を履修者とみなす。令和7年度の履修者数については、令和8年度4月申請時点で確定している「データサイエンス・AI概論」の履修者数としている。また令和7年度終了時点で55名が本プログラム修了となった。これら履修状況は科目担当教員が把握し、運営委員会が修得状況を確認し、改善に向けた議論を行う。
学修成果	本学部では文系科目(英語・国語・社会)を利用した入試方式で入学した学生が毎年一定数含まれるが、それらのいわゆる文系学生であっても「情報科学概論」「コンピューティング実習」「統計入門」「数理情報Ⅰ」の数理・情報系科目において概ね合格水準の成績を取得できている。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本学では前期・後期のそれぞれ終了時期に授業改善のための学生アンケートを実施している。そこでは時間外学習時間、授業に対する興味度、授業の良かった点、改善すべき点などを収集している。本プログラムの構成科目については概ね肯定的な反応を得ている。各授業の良かった点あるいは改善すべき点で得られた意見を基に授業内容の見直しをしていきたい。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	授業改善のための学生アンケートでは、後輩等他の学生への推奨度を直接尋ねてはいない。ただし、授業改善のための学生アンケートにおける興味度や履修して良かった度合いの高い科目については推奨度も高いと推測される。また、本プログラムの周知紹介の際に、既受講生の声を紹介するなど、本プログラムへの関心度を上げる取り組みを計画している。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本プログラム構成科目には2年次以降に履修可能となる科目が含まれているため、年度開始時の履修ガイダンス及び該当科目のガイダンスにおいて、本プログラムについて十分に説明し、可能な限り多くの学生に構成科目を選択するよう周知を図っている。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>本プログラムは令和6年度に開始され、また複数年度にわたるプログラムとして構成されている。令和7年度終了時点で55名が修了した。ただし令和8年度時点で3年生であるため、修了者の進路等について今後調査を実施する予定である。</p> <p>本プログラムは、数理・データサイエンス・AIの基礎を幅広い学生に習得させることを目的としており、特に数学や情報が得意でない学生にも学びやすい設計がなされている点が評価されることが考えられる。また、本学部では本プログラムの科目群を含む学部教育課程等に対する外部有識者との意見交換会を定期的・継続的に実施しており、その中でデータサイエンス教育に関する意見交換を行っている。この意見交換会は継続実施を計画しており、それらの場で得られた意見を共有し本プログラム改善の参考にしたい。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>本プログラムは令和6年度から開始する複数年に係るプログラムであり令和7年度に修了生がはじめて生じた段階である。そのため現時点では修了者や企業からの評価等のデータはまだ得られていない。しかし、プログラムの導入に際し、1年次必修科目から数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶ機会を提供し、理論と実践の両面から学ぶ楽しさと意義を実感できるカリキュラムを設計している。例えば、「コンピューティング実習」は履修者からの評価も高く、プログラミングに対する苦手意識の払拭や興味の増加に成功している。今後、学生の学習意欲や理解度を把握するための評価手法を検討し、本プログラムの改善に活かしていく。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>授業の分かりやすさ向上を目的に、演習中心の授業設計やオンライン学習管理システム（令和7年度まではCoursePower、令和8年度以降はMoodle）を活用した補助教材の提供を行い、学習支援を強化している。また、学部の情報系科目および数学系科目における教員・TAによる授業内外の質問対応の仕組み（「情報質問部屋」および「数学質問部屋」）などの支援体制を活用しながら、より分かりやすい授業の実現に向けた改善を継続する。</p>